

館報 はだ



スージーちゃん スイカ7くん

令和7年9月1日現在

世帯数	6,435戸
人口	15,075人
男	7,304人
女	7,771人

仁科西街道 開道記念祭

5月11日に波田郵便局から100メートル余り南にある記念碑前にて、第百十四回仁科西街道開道記念祭が開催されました。

この記念祭は、明治44年5月に1年を要して鍋割から南へ約1000メートルの工事区間を開き、竣工したことを記念して、地域住民により組織された実行委員会が毎年行っているものです。



○群道坂開さくの願い
明治40年に波多村は3つの

小学校を統合して波田尋常高等小学校を鍋割に新築しましたが、その新校と上の段集落との間には、赤松の原生林に覆われた高低差が約40メートルの段丘崖があり、林の中は細く急な曲がりくねった山道だけで、上の段からの児童の通学は非常に不便で難渋しました。また、産業面でも農作物を運ぶに不便さが大きく、「段丘林に子ども達や多くの物資が野麦県道（現国道）に楽に往来できる広い道がほしい」と、上の段の全住民が願っていました。

○開道への経過
東筑摩郡会議員の波多腰塚次氏は、松本平中央を通る仁科街道を豊科で分岐して梓波多、山形、今井村を経て洗馬へ通じる道を『仁科西街道』の名称をもって、鍋割より中波田駐在所に至る道路を改良逐次延長して開道することを群議会に提案、国も県も財政難の中、困難な審議の末にようやく可決し、明治43年4月に着工することができました。

村費と村民寄付金で総工費の半分以上を負担し、多数の村民が時に直接参加するなど全村挙げてこの工事に協力し、翌44年に約1000メートルの工事区間が完成し、5月には新踏式を行い、村中で祝いました。



新踏式情景

○開道後の状況
群道の開通で、交通が円滑になり、沿道には次第に公共文化施設、金融機関や商店等が進出し、波多村（のちの波田村）だけでなく、松本平西部の中心地となって近隣諸村の発展にも貢献しました。

○先人への敬意
地域住民は先人の功績を讃え、記念碑を建て、社会発展への先見性や実行力、団結力等を後世に伝えようと、実行委員会を組織し、毎年欠かさず街道記念祭を開いています。

25区「防災の日」 日々の生活の確認を！

波田地区の避難訓練が6月29日、午前8時から実施されました。地震や大規模災害に備え、25区は町会長を中心に各組長の指示で行動しました。

各町会で決めた一次避難所に参集し、安否確認を行うことを求められたため、まず組長が指示された所定の場所へ行いました。その後、集合時間集まり、各世帯の安否確認を行いました。その後、集合時間集まり、各世帯の安否確認を行いました。町会長への安否を報告しました。



このような訓練を日頃から行うことは大切です。過去には2011年6月30日、松本市南部を震源とするマグニチュード5.4の地震が発生し、震度5強が観測されました。

幸いなことに死者は出ませんでした。被災を受けた建物は約5000棟に及んだとのこと。最近では熊本県で大雨による災害が発生するなど、数年前より異常気象による災害が増えていると感じます。

「防災の日」は9月1日です。これは、1923年9月1日に発生した関東大震災を教訓として、災害への備えや心構えを忘れないようにと制定されました。防災の日に合わせて全国各地では、様々な災害に対する認識を深め、備えを充実させるために防災訓練や啓発活動が行われます。

災害はいつ何時起こるか想定できません。波田地区から松本市街へ通勤されている方も多いと思いますので、区内以外で災害にあう可能性もあります。普段から災害への意識を高めるためにも、災害の危険性を表した「ハザードマップ」を確認することで、自分が活動する地域でどのような災害が起こりえるのかイメージできます。

この日を機に、皆様も防災グッズの準備・確認、隣近所の方の状況を把握するなど、防災対策について改めて見直してみましよう。

15区

神楽まつり

8月3日、15区で2年に1度の最大行事である納涼祭及び七夕祭りを開催しました。

今回は町会長の意向により、町会内全世帯へ記念タオルの配布が行われました。

当日は35度に迫る猛暑の中、多くの家族連れが訪れ、楽しい時間を過ごしました。ソフトドリンク、お菓子、ポップコーンに加えて、今回は唐揚げとアイスクリームの提供、ビールなどのアルコール類も100円で提供されました。

メイン会場の公民館大広間では、ご近所同士が飲食しながら和気あいあいとしたひとときを過ごしました。

イベントコーナーでは、水風船釣り、射的、輪投げ、スカットボールのコーナーを設け、子どもも大人も沢山景品を獲得して楽しんでいました。



16時からはビンゴ大会を行いました。特賞の選べる遊園地ペア招待券の獲得を目指して、参加者全員が呼ばれる数字に、歓声とため息を出しながら楽しみました。



17時からは15区遊園地にて七夕祭りをを行い、各家庭から短冊や七夕飾りを飾った笹を持ち寄って、事前に準備した牛枠に差し込みました。代表児童2名が牛に点火し、火は瞬く間に大きな炎となって燃え上がりました。参加者は願い事が叶うようお祈りしながら、燃え尽きるのを見守りました。



スイカ割りの歴史

波田を代表する果物スイカ。そんな身近なスイカを使ったレクリエーション、『スイカ割り』の歴史について、調べてみました。



スイカ割りの起源は明確ではなく諸説あります。江戸時代には「目隠しをして何かを探す・叩く」という遊びが存在していたため、それが夏の食材であるスイカと結びついて自然発生的に生まれたのではないかという説。

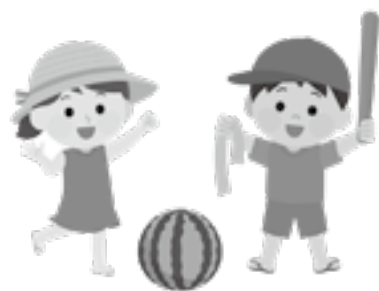
昭和30～40年代、日本のレジャーブームとともに、海水浴場で家族連れや団体が楽しめるレクリエーションとして誕生した説。

ラテン文化の「ピニャータ」に似ているということから、外国由来の文化の影響を受けているなど、正確な起源は定かではないものの、日本ではレクリエーションの一環として根付いている文化と言えます。

1991年にはスイカの消費拡大を目的に、「日本スイカ割り協会」なるものが設立されました。より楽しく、かつ安全に行われるよう公式ルールも作られたそうですが、現在では解散しているようです。

その後、山形県尾花沢市を拠点とするJAみちのく村山によって設立された「日本スイカ割り推進協会」では、現在も「全日本スイカ割りスポーツ選手権大会」を開催するなど、活動を継続しています。

昨今は、現代的な視点を加えたリスク管理、配慮が必要になってくるかと思いますが、老若男女問わず楽しめるレクリエーションとして、来年もまたその次の夏も、笑顔と笑い声とともに夏の楽しい記憶となり、心に残っていくのではないのでしょうか。



デザインマンホールをご存じでしょうか？波田地区にも旧波田町のマンホールがいくつかございます。

一つは町木の「アカマツ」、町花の「ツツジ」、中央に町章を表した彩色されたマンホールです。図案はほぼ同じのミニ版もあり、大小2種類あります。見たことがある方も多いであろう波田駅前から東へ向かうタイル舗道にあるものは、1996年に設置されたとのこと。

これは見たことがある方も多いのでは？



どこにあるかわかるかな？



もう一つは、ツツジの図案のマンホールです。これは1区画で10枚ほどしか確認できていないそうなので、皆さんもぜひ探してみてください。